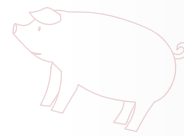
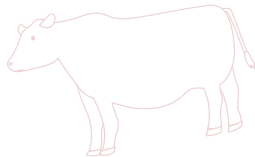




部門別の動き



1 農業

(1) 水田農業

(4) 福岡県農業の主要指標

(2) 園芸・特産

(5) 福岡県農業の全国的地位

(3) 畜産



2 林業

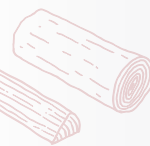
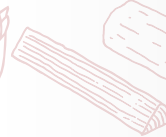
(1) 森林・林業

(4) 福岡県林業の主要指標

(2) 木材産業

(5) 福岡県林業の全国的地位

(3) 特用林産物等



3 水産業

(1) 筑前海区

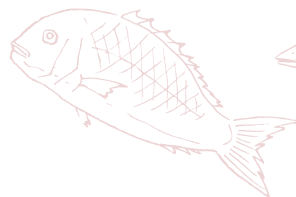
(5) 福岡県水産業の主要指標

(2) 有明海区

(6) 福岡県水産業の全国的地位

(3) 豊前海区

(4) 内水面

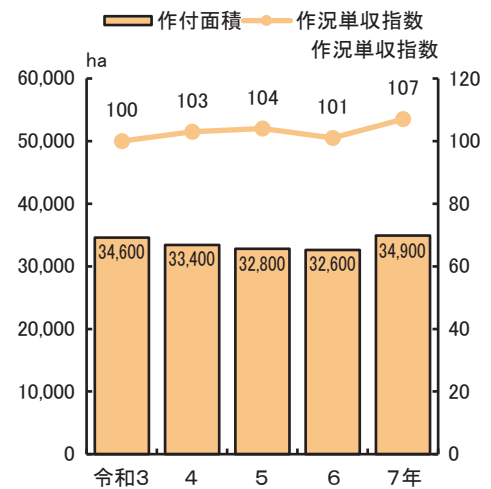


(1) 水田農業

〇米

(作付面積は前年から2,300ha増、作況単収指数は107)

- ・作付面積は、前年に比べ2,300ha増の34,900ha。生産量は23,700t増の175,900t。10a当たりの収量は504kg、作況単収指数は107。
- ・これは、梅雨明け以降の多日照により、穂数が前年に比べ多く確保され、籾数がやや多くなったことが主な要因。
- ・うるち米全体に占める県育成品種の割合は、前年並みで「夢つくし」が42%、「元気つくし」が22%。



水稲の作付面積・作況単収指数

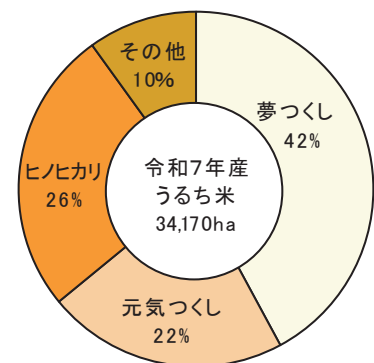
資料：農林水産省「作物統計」

〇麦

(麦の作付面積は前年並み、生産量は20,420t増)

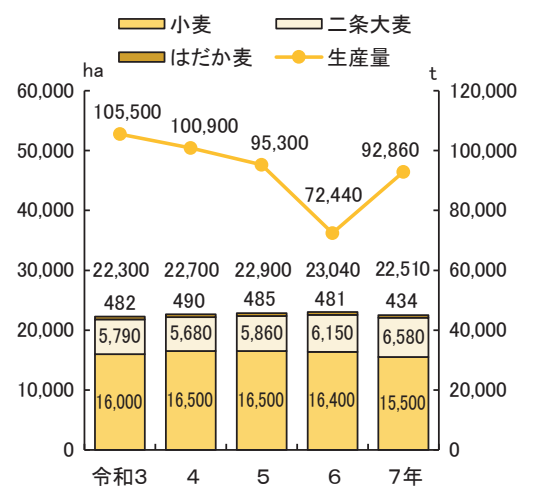
- ・作付面積は、前年に比べ530ha減の22,510ha。生産量は平年※に比べ20,420t増の92,860t。
- ・冬場の少雨傾向に伴い、管理作業が着実に実施され、穂数が平年並みからやや多くなったことに加え、出穂期以降の好天で子実の充実も良好であったことが、増収の主な要因。
- ・小麦の生産量は、平年に比べ1%減の64,500t、二条大麦は14%増の26,800t。
- ・ラーメン用小麦「ラー麦」の作付面積は、前年並みの1,900ha。生産量は平年に比べ5%減の6,952t。

※平年値：平成30年産～令和6年産平均（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年平均）。



うるち米の品種別作付割合

資料：水田農業振興課調べ



麦類の作付面積・生産量

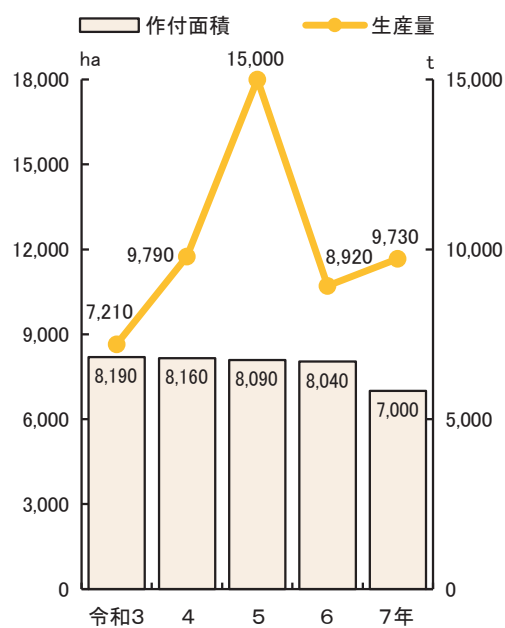
資料：農林水産省「作物統計」

○大豆

(大豆作付面積は前年から1,040ha減、生産量は810t増)

- ・作付面積は、前年から1,040ha減の7,000ha、うち令和4年から本格栽培を開始した大豆新品種「ふくよかまる（品種名：ちくしB5号）」の作付面積は6,822ha。
- ・生産量は、平年※に比べ94t減の9,730t。
- ・10a当たりの収量は、平年比112%の139kg。
- ・梅雨明けが早く、7月中旬までの適期播種割合が高かったことが単収増加の主な要因。

※平年値：平成30年産～令和6年産平均（直近7か年のうち最高及び最低を除いた5か年平均）。



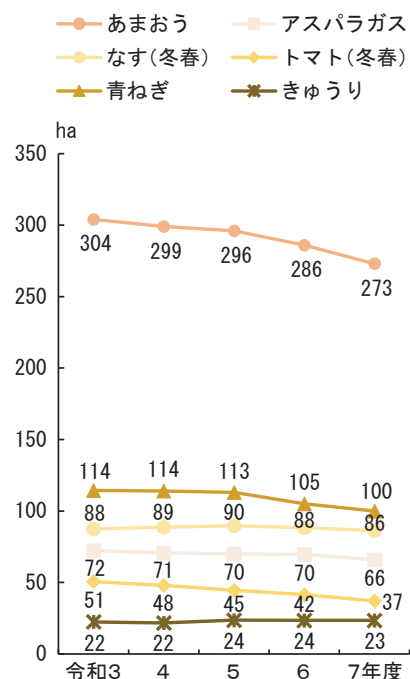
大豆の作付面積・生産量

資料：農林水産省「作物統計」

○野菜

（「あまおう」の販売単価は22年連続で日本一）

- いちご「あまおう」の作付面積は、前年度産に比べ13ha減の273ha。定植前後の高温の影響により年内の出荷が少なく、3、4月の出荷量も伸びなかったため、販売数量は、前年度産に比べ6%減の8,551t。販売単価は1,687円/kgとなり、22年連続日本一。販売金額は144億円。
- なすの販売数量は、生育期間を通して日射量が多く確保され、比較的大きな増減なく推移した一方、生育後期は天候不順による品質の低下が見られ、前年度産に比べ2%減の11,608t。
- アスパラガスの作付面積は、前年度産に比べ3.7ha減の65.9ha。1戸当たりの作付面積は19.5aと、5年前の令和2年度産と比べて0.2a減。
- 露地野菜の令和6年度産作付面積は、ほうれんそうやブロッコリー、レタスの作付が減少したことにより、前年度産から164ha減の2,945ha。



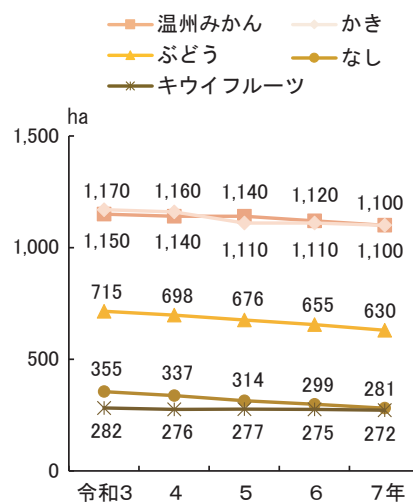
主要野菜の系統共同販売面積

資料：JA全農ふくれん調べ

○果樹

（「秋王」の栽培面積が43haに拡大）

- 温州みかんの栽培面積は、前年産に比べ20ha減の1,100ha。県内で育成された「早味かん」や「北原早生」の栽培面積は、前年産と同じく187ha。生産量は、盆明け以降の定期的な降雨により肥大が促進され、前年比43%増の3,168t。
- かきの栽培面積は、前年産に比べ10ha減の1,100ha。県育成品種「秋王」の栽培面積は前年産に比べ2ha増の43ha。面積は拡大したものの、高温による着色遅れや小玉傾向がみられたことで、生産量は、前年産と同等の186t。
- キウイフルーツの栽培面積は、前年産に比べ3ha減の272ha。県育成品種「甘うい」の栽培面積は、前年産と同じく22ha。生産量は、盆明け以降の定期的な降雨により後期肥大したことで、前年比38%増の330t。



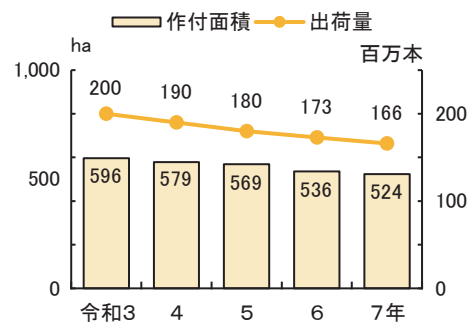
果樹の栽培面積

資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」「作況調査（果樹）」

○花き・花木

(花きの作付面積、出荷量は前年並み)

- 花きの作付面積は、524haで前年よりやや減。作付面積全体の3割を占めるキクは前年に比べ4ha減の172ha。
- 花きの出荷量は、前年に比べ4%減の166百万本。



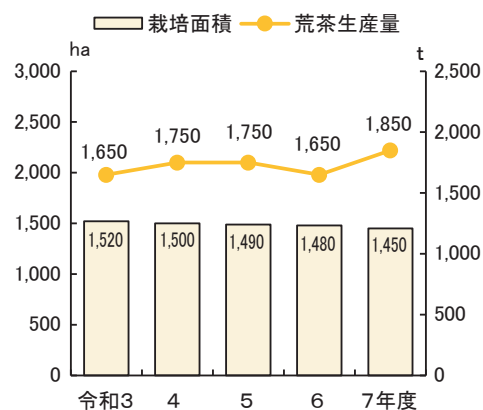
花き出荷量及び作付面積

資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

○特産（茶）

(全国茶品評会「玉露の部」で八女市が25年連続産地賞※を受賞)

- 茶の栽培面積は前年度並みの1,450ha。八女伝統本玉露の栽培面積は、前年度に比べ1.6ha減の8.7ha。
- 荒茶の生産量は、前年度に比べ200t増の1,850t。
- 一番茶の荒茶価格は、普通煎茶が前年度に比べ22%上昇し3,671円/kg、玉露が前年度に比べ39%上昇し7,669円/kg、碾茶が54%上昇し5,337円/kg。
- 令和7年度の全国茶品評会において、八女市が「玉露の部」で25年連続となる産地賞※を受賞。



茶の栽培面積と荒茶生産量

資料：栽培面積は農林水産省「耕地及び作付面積統計」
荒茶生産量は農林水産省「作物統計（工芸作物）」

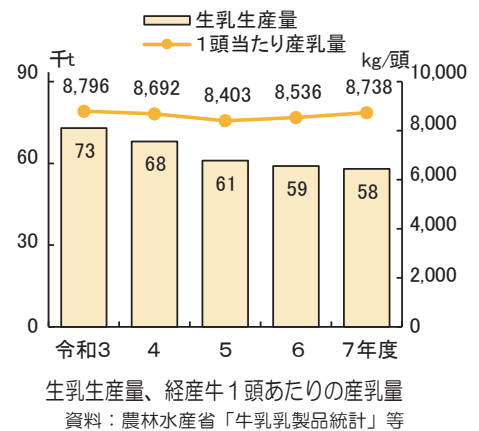
※産地賞：茶種ごとに成績優秀な市町村に対し褒賞するもので、同一市町村から3点以上出品があり、審査成績の上位3点の合計審査得点をもって決定。

○乳用牛

(生乳生産量は前年比 1,394t 減)

- ・乳用牛飼養頭数は、飼養戸数の減少により前年度に比べ570頭減の9,530頭。1戸当たりの飼養頭数は、前年並みの66.2頭。
- ・生乳生産量は、前年度に比べ1,394t減の57,758t。
- ・令和6年度の高能力牛^{*}の飼養頭数は、前年度に比べ18頭減の437頭。搾乳牛全体に占める割合は11.2%と前年と同程度となった。
- ・経産牛1頭当たりの産乳量は、前年度に比べ202kg増の8,738kg。

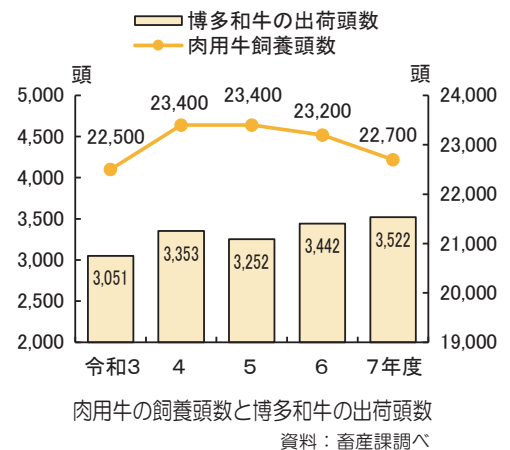
※高能力牛：年間産乳量が12,000kg以上の乳牛のこと。



○肉用牛

(「博多和牛」出荷頭数は80頭増の3,522頭)

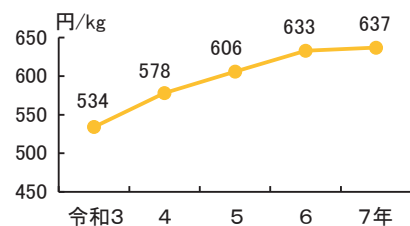
- ・肉用牛飼養戸数、飼養頭数は、前年度からのほぼ横ばいの157戸、22,700頭。1戸当たりの平均飼養頭数は144.6頭。
- ・「博多和牛」の出荷頭数は、前年度に比べ80頭増の3,522頭。
- ・年平均枝肉価格は、物価高騰に伴う消費者の節約志向により、前年に比べ和牛は6.3%低下。和牛に比べ割安感のある交雑種は2.0%、乳用種は5.0%上昇。



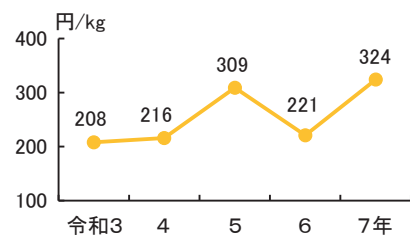
○養鶏・養豚

(豚の飼養頭数は76,388頭、鶏卵価格は前年比46%上昇)

- 豚の飼養頭数は、飼養戸数の減少により、前年に比べの3,412頭減の76,388頭。豚肉価格は、前年に比べ0.6%上昇の637円/kg。
- 鶏卵生産量は、飼養戸数は減少したものの、前年度に比べ2,981t増の35,072t。
- 鶏卵価格は、令和7年に発生した鳥インフルエンザによる鶏の殺処分の影響から、全国的に流通量が減少し、前年に比べ47%上昇の324円/kg。



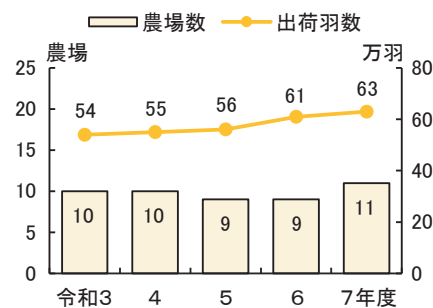
資料：畜産課調べ



資料：畜産課調べ

(「はかた地どり」の出荷羽数は前年度比3.3%増加)

- 肉用鶏飼養羽数は、前年度並みの122万羽。
- 「はかた地どり」の令和7年度の農場数は11農場に増加したことで、出荷羽数が増加し、前年度に比べ3.3%増の63万羽。



資料：福岡県はかた地どり推進協議会調べ

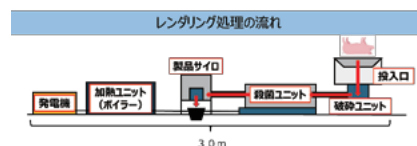
○家畜衛生

(関係機関と連携し、家畜防疫体制を強化)

- 令和7年10月、桂川町において、飼養豚での豚熱発生を想定した防疫演習を実施。
- 演習では、死体の埋却処理が困難な場合に備え、民間事業者の協力を得て、国の移動式レンダリング装置の運用手順を検証。



レンダリング処理した死体の密閉・保管



(4) 福岡県農業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全 国 シェア(%)	全 国 ランク	備 考
農 家 数		戸	33,251	1,394,135 (1,363,996)	2.4	18	2025年農林業センサス 注：() は都府県
うち販売農家		戸	21,840	792,808	2.8	13	
自給的農家		戸	11,411	601,327	1.9	21	
農業経営体数		経営体	22,921	836,054 (806,855)	2.7	13	2025年農林業センサス 注：() は都府県
うち個人経営		経営体	21,847	795,828	2.7	13	
団体経営		経営体	1,074	40,226	2.7	10	
基幹的農業従事者数		人	29,169	1,036,228	2.8	14	2025年農林業センサス (個人経営体)
うち女性の割合		%	37.4	36.4	—	—	
65歳以上の割合		%	65.5	69.6	—	—	
耕 地 面 積		ha	77,400	4,239,000 (3,107,000)	1.8	15	令和7年耕地面積調査 注：() は都府県
うち水田面積		ha	63,000	2,300,000 (2,081,000)	2.7	14	
畑 面 積		ha	14,400	1,939,000	0.7	26	
水 田 率		%	81.4	54.3 (67.0)	—	12	
1戸当たり平均耕地面積		a	232.8	304.1 (227.8)	—	—	注：1戸当たり平均耕地面積は耕地面積／農家戸数で算出
農 業 産 出 額		億円	2,301	108,200	2.1	19	令和6年生産農業所得統計
うち 米		億円	536	25,640	2.1	16	
麦 類		億円	34	602	5.6	3	注：全国は都道府県の合計値
豆 類		億円	10	634	1.6	10	
野 菜		億円	807	25,510	3.2	9	
果 実		億円	266	10,112	2.6	11	
花 き		億円	172	172	100.0	3	
そ の 他 作 物		億円	59	698	8.5	2	
工 芸 農 作 物		億円	24	1,577	1.5	11	
畜 産		億円	373	36,932	1.0	26	
乳用牛飼養頭数		頭	9,530	1,293,000	0.7	21	令和7年畜産統計調査
肉用牛飼養頭数		頭	22,700	2,595,000	0.9	25	注：豚・採卵鶏・ブロイラーは畜産課調べ
豚 飼 養 頭 数		頭	76,388	—	—	—	注：採卵鶏は成鶏めす羽数
採卵鶏飼養羽数		千羽	2,435	—	—	—	
ブロイラー飼養羽数		千羽	1,221	—	—	—	

(5) 福岡県農業の全国的地位

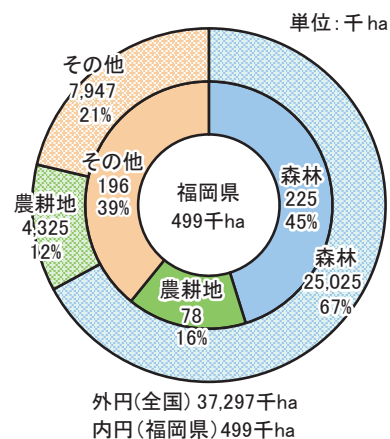
項目		区分	単位	全国順位 全国計	主 産 県					全国シェア		全国面積 県面積 (単位:ha)
					1	2	3	4	5	面積	収穫量	
麦 類	小 麦	t	2	1,031,000	北海道	福岡	佐賀	愛知	三重	7%	6%	229,600
	二 条 大 麦	t	3	152,900	佐賀	栃木	福岡	熊本	岡山	16%	18%	40,300
	は だ か 麦	t	4	16,500	愛媛	大分	香川	福岡	岡山	8%	9%	5,160
野 菜	い ち ご	t	2	156,600	栃木	福岡	熊本	愛知	静岡	9%	9%	4,700
	み ず な	t	2	34,100	茨城	福岡	京都	滋賀・兵庫		10%	10%	2,190
	冬 春 な す	t	3	108,800	高知	熊本	福岡	愛知	群馬	10%	13%	1,020
	セ ル リ ー	t	3	28,900	長野	静岡	福岡	愛知	香川	9%	12%	540
	こ ま つ な	t	3	118,200	茨城	埼玉	福岡	東京	群馬	9%	10%	7,380
	し ゅ ん ぎ く	t	3	23,200	大阪	千葉	福岡	茨城	群馬	10%	9%	1,650
	冬 春 ト マ ト	t	4	364,800	熊本	愛知	栃木	福岡	千葉	3%	4%	3,560
		t			109,800	40,800	24,800	14,700	14,600			107
果 樹	キウイフルーツ	t	3	20,600	愛媛	和歌山	福岡	神奈川	群馬	14%	16%	1,820
	か き	t	3	167,300	和歌山	奈良	福岡	岐阜	新潟	6%	8%	17,200
	ぶ ど う	t	5	164,600	山梨	長野	岡山	山形	福岡	4%	9%	16,300
	い ち じ く	t	5	9,260	和歌山	愛知	大阪	兵庫	福岡	8%	9%	776
花 き	ガーベラ（切花）	千本	2	114,700	静岡	福岡	和歌山	愛知	長崎	14%	16%	69
	き く	千本	3	1,046,000	愛知	沖縄	福岡	鹿児島	長崎	5%	6%	3,520
	トルコギキョウ	千本	3	74,800	長野	熊本	福岡	高知	静岡	9%	10%	359
	洋ラン類（鉢物）	千鉢	4	10,200	愛知	熊本	千葉	福岡	山梨	8%	8%	146
	ば ら	千本	4	148,500	愛知	静岡	山形	福岡	群馬	6%	7%	229
		千本			26,900	15,100	12,100	10,400	9,610			14
そ の 他 作 物 （ 庭 園 樹 苗 木 等 ）		億円	1	129	福岡	三重	愛知	千葉	鹿児島	—	32%	—
特 産	茶	億円	5	442	鹿児島	静岡	京都	三重	福岡	4%	3%	33,400
	い 草	t	3	5,055	熊本	高知	福岡	沖縄	佐賀	1%	0.3%	329

注：麦類：7年産作付面積（子実用）・収穫量、野菜：6年産作付面積・収穫量、
 果樹：6年産結果樹面積（いちじくは5年産栽培面積）・収穫量、花き：6年産作付（収穫）面積・出荷量、
 庭園樹苗木等：6年産出額、茶：6年産生葉産出額、7年産作付面積・生葉収穫量（主産県）、
 い草：6年産収穫量・作付面積 ※公益財団法人日本特産農産物協会「地域特産作物（工芸作物、薬用作物及び和紙原料等）に関する資料」

(1) 森林・林業

(森林率は45%、全国より22ポイント低い)

- ・ 本県の森林面積は225千 ha で、県土面積に対する森林面積の割合である森林率は45%。
- ・ これは全国の森林率67%より22ポイント低い。



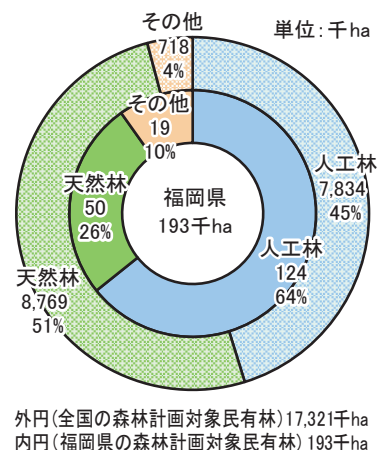
国土・県土に占める森林の面積

資料：福岡県：地域森林計画書（令和8年4月1日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（令和4年度）」等

(人工林率は64%、全国2位)

- ・ 本県の民有林における人工林面積は124千 ha で、民有林に占める人工林の面積割合を示す人工林率は64%。これは全国の45%より19ポイント高く、全国2位。
- ・ 人工林と天然林を合わせた材積※は62,231千 m³。

※材積：木材の体積で、単位は立方メートル。



人工林・天然林別の森林面積

資料：福岡県：地域森林計画書（令和8年4月1日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（令和4年度）」

人工林・天然林別の材積

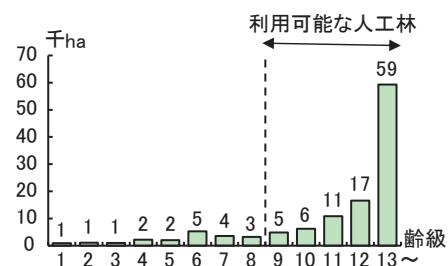
単位: 千 m³

	人工林	天然林	計
全国	2,990,008	1,265,499	4,255,846
福岡県	58,250	3,981	62,231

資料：福岡県：地域森林計画書（令和8年4月1日現在）
全 国：林野庁「森林資源現況調査（令和4年度）」

(スギ・ヒノキの資源が充実)

- ・ 本県の人工林124千haのうち、スギ・ヒノキ林は117千ha。
- ・ このうち本格的に利用可能な41年生以上の面積は98千ha。



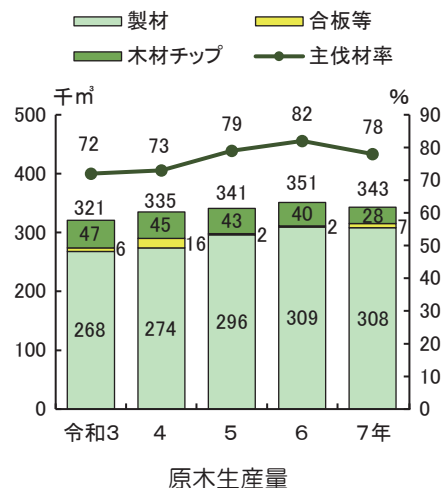
齢級別のスギ・ヒノキ人工林面積

注：齢級の単位は5年

資料：地域森林計画書（令和8年4月1日現在）

(原木生産量は343千 m^3 とほぼ横ばい)

- 令和7年の原木生産量は、建築資材の高騰等を背景に、住宅着工戸数が3年連続で減少したことから、原木需要が伸びなやみ、原木生産量は前年並みの343千 m^3 。
- 原木生産に占める主伐材の割合は前年に比べ4%減の78%。
- 原木の用途別では、製材用が308千 m^3 、合板等用が7千 m^3 、木材チップ用が28千 m^3 。

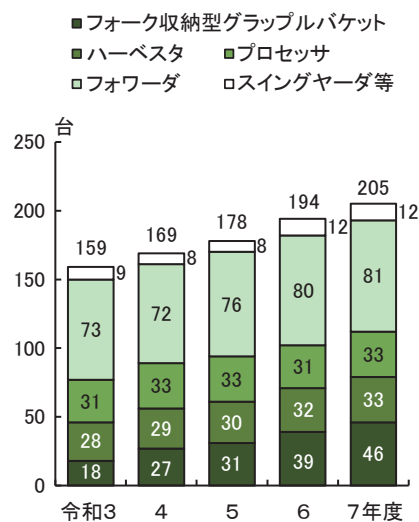


原木生産量

資料：林業振興課調べ

(先進的な林業機械の保有台数は205台)

- 令和7年度の先進的な林業機械の保有台数は、前年度から11台増の205台。
- これは、原木生産を効率的に行うため、立木の伐採・集積や作業道の開設に使用できるフォーク収納型グラブバケットなどの導入が進んだことによるもの。



先進的な林業機械保有台数（累計）

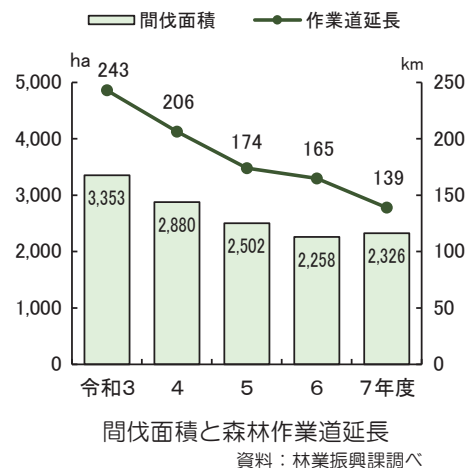
資料：林業振興課調べ



フォーク収納型グラブバケット

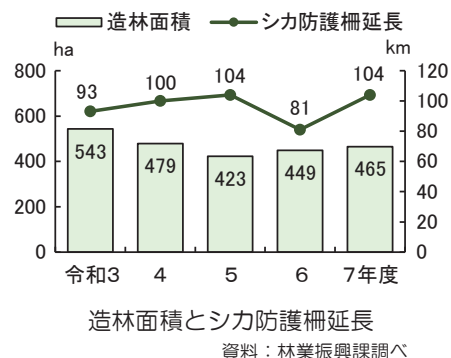
（間伐面積は2,326ha）

- 令和7年度の間伐面積は、前年度に比べ68ha増の2,326ha、間伐等と一体的に行う森林作業道の整備延長は、前年度に比べ26km減の139km。

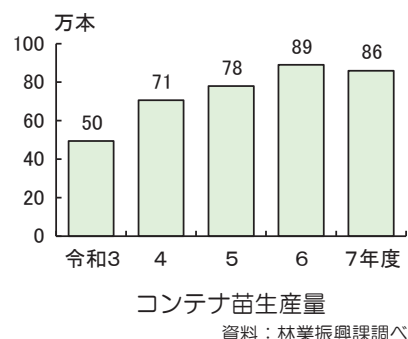


（造林面積は465ha）

- 令和7年度の造林面積は、前年度に比べ16ha増の465ha。
- シカによる苗木の食害が多い地域では、苗木を保護するためのシカ防護柵を併せて設置し、7年度の設置延長は104km。
- 年間を通して植栽可能なコンテナ苗※の生産量は、前年度に比べ3万本減の86万本。

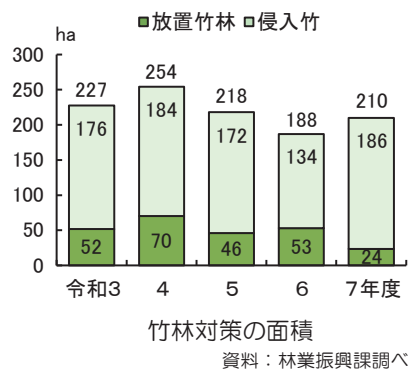


※コンテナ苗：根鉢があるため、これまでの裸苗よりも活着率が高いことから、年間を通して植栽することが可能な苗。



（竹林対策の面積は210ha）

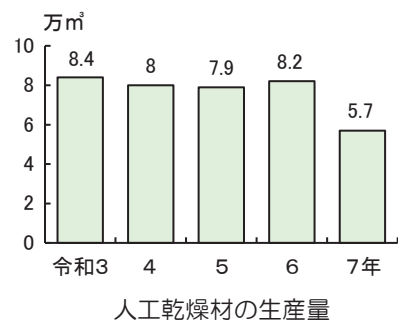
- 令和7年度の放置された竹林の伐採とスギや広葉樹への植替えの面積は、前年度に比べ29ha減の24ha、人工林への侵入竹の伐採面積は、前年度に比べ52ha増の186ha。



(2) 木材産業

(人工乾燥材生産量は5万7千 m^3)

- ・住宅メーカーや工務店が求める曲がりや割れの少ない人工乾燥材の令和7年の生産量は、製材工場の減少により前年から30%減の5万7千 m^3 。
- ・県内の製材工場で生産している製材品に占める人工乾燥材の割合は63%。

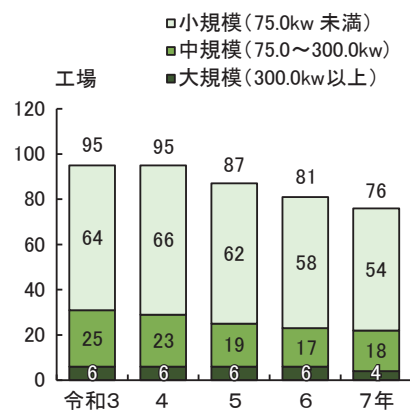


人工乾燥材の生産量

資料：林業振興課調べ

(製材工場数は76工場)

- ・令和7年の製材工場数は、前年から5工場減少し、76工場。
- ・製材品の製造能力別にみると、小規模が4工場、大規模工場が2工場減少し、中規模工場は横ばい。

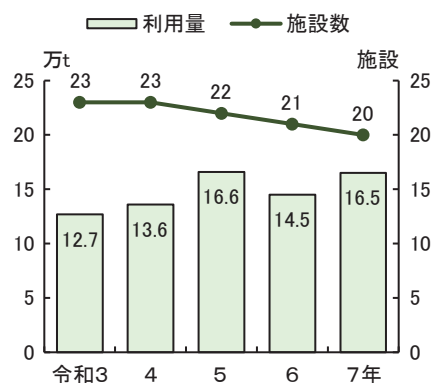


製材工場数

資料：農林水産省「木材統計」

(木質バイオマスのエネルギー源としての利用量は16万5千t)

- ・木質バイオマス※をエネルギー源として利用する施設は、主に温浴施設や発電施設、製材工場の人工乾燥施設で、施設数は前年から1減の20施設。
- ・令和7年の利用量は、前年に比べ14%増の16万5千t。
- ・これは、筑前町の木質バイオマス発電所における利用量が増加したことによるもの。



木質バイオマスのエネルギー源としての利用量と利用施設数

資料：林業振興課調べ

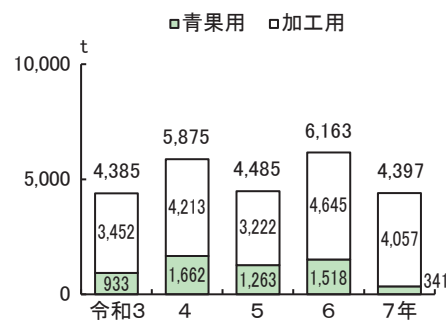
※木質バイオマス：再生可能な生物由来の有機性資源で、木本類（枝葉を含む）、竹、製材等残材、木質チップ、薪、木質ペレット、建築資材廃棄物。

(3) 特用林産物等

(たけのこ生産量は29%減の4,397t)

- ・令和7年のたけのこの生産量は、前年に比べ29%減の4,397t。
- ・これは、主産地の八女地域が裏年※であったことにより、生産量が減少したものの。

※表年と裏年：竹は、通常2年に一度葉変わりするため、豊作年（表年）と不作年（裏年）が交互に現れる。



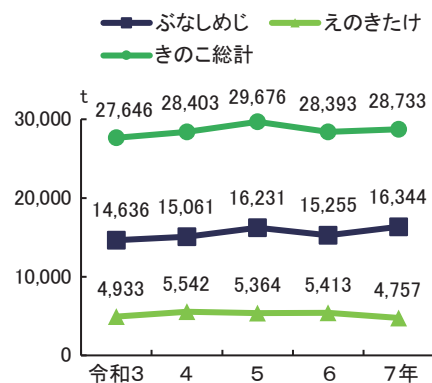
たけのこ生産量

資料：林業振興課調べ

(きのこ類全体の生産量は1%増の28,733t)

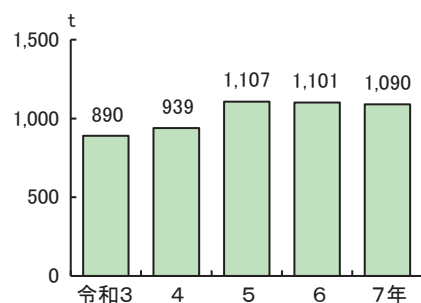
- ・令和7年のぶなしめじの生産量は、前年に比べ7%増の16,344t。えのきたけの生産量は、前年に比べ12%減の4,757t。きのこ類※全体では前年に比べ1%増の28,733t。
- ・しいたけの生産量は、前年に比べ1%減の1,090t。
- ・これは、主要な生産者において、価格維持のため出荷調整を行ったことが要因。

※きのこ類：生しいたけ、乾しいたけ、なめこ、えのきたけ、ひらたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、きくらげ類、ぬめりすぎたけ、ゆきけいたけ、王リンギを含む。



きのこ類生産量

資料：林業振興課調べ



しいたけ生産量

資料：林業振興課調べ

(4) 福岡県林業の主要指標

項目	区分	単位	福岡県	全国	全国シェア (%)	全国ランク	備考
民有林の状況							
面積		千ha	193	17,321	—	—	県：令和8年4月1日現在(地域森林計画書) 全国：令和4年3月末現在(森林資源現況調査：林野庁)
材積		千m ³	62,231	4,255,846	—	—	
造林面積		ha	465	21,708	—	—	県：令和7年度実績(林業振興課調べ) 全国：令和5年度実績(2025年森林・林業統計要覧：林野庁)
間伐面積		ha	2,326	222,000	—	—	
主伐面積		ha	572	81,969	—	—	県：令和7年度実績(農山漁村振興課調べ) 全国：令和5年度実績(2025年森林・林業統計要覧：林野庁)
林道延長(自動車道)		km	1,608	93,706	—	—	県：令和8年3月末現在(農村森林整備課調べ) 全国：令和6年3月末現在(2025年森林・林業統計要覧：林野庁)
林道密度		m/ha	8.4	5.4	—	—	
林業・木材産業の状況							
森林組合数		組合	9	602	—	—	県：令和7年3月末現在(団体指導課調べ) 全国：令和6年3月末現在(令和5年度森林組合統計：林野庁)
森林組合員数		人	27,821	1,455,237	—	—	県：令和7年3月末現在(団体指導課調べ) 全国：令和6年3月末現在(令和5年度森林組合統計：林野庁)
製材工場数		工場	76	3,423	—	—	令和8年6月末現在 (令和7年木材統計：農林水産省)
主な林産物生産量							
素材		千m ³	343	19,763	1.7	28	令和7年次実績(令和7年木材統計：農林水産省、林業振興課調べ)
しいたけ		t	1,090	72,974	1.5	20	
ぶなしめじ		t	16,344	117,536	13.0	3	
えのきたけ		t	4,757	120,678	4.5	4	県：令和7年次実績(林業振興課調べ) 全国：令和6年次実績(令和6年特用林産基礎資料：林野庁)
たけのこ		t	4,397	20,865	29.5	1	※しいたけは、生に換算した重量
木ろう		t	20	23	47.9	1	
林業産出額							
木材生産		千万円	1,610	57,131			令和6年次実績 (令和6年林業産出額：農林水産省)
薪炭生産		千万円	221	32,764	0.7	27	
栽培きのこ類		千万円	2	709	0.3	20	
栽培きのこ類		千万円	1,375	23,227	5.9	3	
林野副産物採取		千万円	11	431	2.6	9	
木材価格							
スギ(中丸太)		円/m ³	13,300	15,400	—	—	県：令和7年次県森連浮羽事業所実績値 (スギ：径18～22cm、4m) (ヒノキ：径20～22cm、4m) 全国：令和7年次実績 (農林水産統計：農林水産省)
ヒノキ(中丸太)		円/m ³	23,100	25,300	—	—	
緑化木							
生産本数		千本	3,088	56,444	7.6	3	県：令和7年度実績(林業振興課調べ)
生産額		億円	13	—	—	—	全国：平成30年9月現在(緑化樹木の生産事例調査：林野庁)

注1：全国ランク・シェアは、全国の数値の統計年次・年度におけるものを示している。

注2：「—」印は、シェア算出又はランク付けに適さないもの。

注3：「年度」は4月から翌年3月まで、「年次」は1月から12月までを表す。

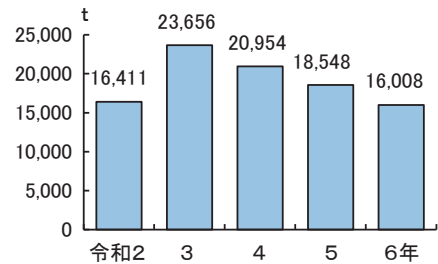
(5) 福岡県林業の全国的地位

項目				区分	単位	全国シェア (%) 全国計	主 産 県				
							1	2	3	4	5
特用林産物	食用	きのこ類	えのきたけ		4.5	新潟	長野	宮崎	福岡	大分	
				t	120,678	18,364	71,068	6,547	5,413	2,670	
			ひらたけ		25.5	新潟	福岡	長野	茨城	三重	
				t	4,004	1,666	1,023	690	233	87	
			ぶなしめじ		13.0	長野	新潟	福岡	香川	茨城	
		t		117,536	47,429	22,650	15,255	5,111	3,077		
		まいたけ		6.5	新潟	静岡	福岡	三重	長野		
			t	56,609	35,597	4,889	3,690	2,925	2,479		
	エリンギ		5.2	長野	新潟	福岡	熊本	鳥取			
		t	34,639	14,822	11,726	1,799	387	333			
	その他 食用	たけのこ		29.5	福岡	鹿児島	京都	熊本	香川		
			t	20,865	6,163	4,908	2,047	1,991	916		
非食用	木ろう		48.7	福岡	愛媛	長崎	石川	和歌山			
		t	23	11.2	10.5	1.3	0.2	0.2			
	竹炭		25.6	福岡	山口	愛知	佐賀	鹿児島			
t		642	164	47	31	8	6				
緑化木	生産本数		千本		7.6	愛知	愛媛	福岡	東京	千葉	
					56,444	17,446	10,731	4,292	4,241	3,677	
	生産面積		a		20.1	福岡	熊本	愛知	千葉	東京	
					388,832	78,148	65,326	33,104	31,649	31,196	

資料：（特用林産物）令和6年林野庁特用林産基礎資料・令和6年次実績
（緑化木）緑化樹木の生産事例調（林野庁）・平成30年9月現在

（海面漁業生産量（沿岸漁業）は前年比14%減の16,008 t）

- 令和6年の本県における海面漁業生産量（沿岸漁業）は、前年比14%減の16,008 t。
- 主な魚種別の生産量は、サバ類が、前年に比べ871 t 減の1,427 t、マダイが前年に比べ107 t 減の1,412 t、ブリ類が前年に比べ114 t 減の2,670 t、アサリ類が前年に比べ978 t 増の1,011 t。
- 主な漁業種類別の生産量は、さし網2,345 t、中小型まき網5,004 t、船びき網2,013 t、小型底びき網920 t。

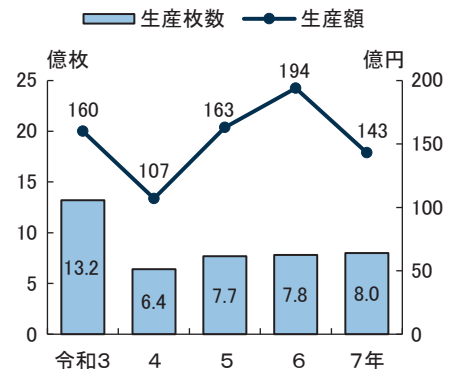


海面漁業生産量

資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」、漁業管理課調べ

（ノリ養殖生産量は平年比16%減の8億枚）

- ノリの生産枚数は平年※¹に比べ16%減の8億枚。
- 主産地である有明海では、水温低下の遅れに伴い、過去最も遅い11月4日に採苗を開始。
- 秋芽網、冷凍網期間を通じた少雨の影響により、沖合漁場を中心に長期間植物プランクトンが増殖。
- 栄養塩が多い筑後川河口域を漁場とする地区と、沖合域を漁場とする地区の間で、単価差が発生。
- 平均単価は、平年に比べ2.01円高の17.77円/枚で、生産額は平年※²に比べ6%減の142.8億円。



ノリ養殖生産枚数・額（養殖年）

資料：水産振興課調べ

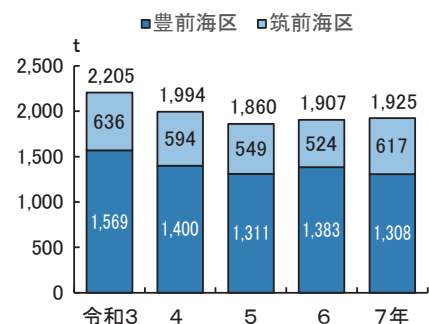
※1 生産枚数の平年値：9.6億枚（令和2年～令和6年の5か年平均）。

※2 生産額の平年値：151.5億円（令和2年～令和6年の5か年平均）。

（カキ養殖生産量は平年並みの1,925 t）

- カキの養殖生産量は平年※並みの1,925 t。
- 県の指導に基づく食害防止対策や養殖管理を徹底した結果、平年並みの生産を維持。

※生産量の平年値：令和2年～令和6年の5か年平均。

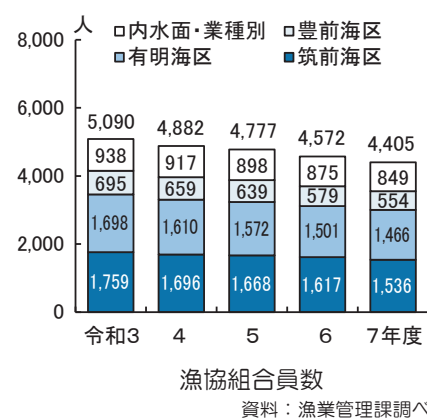


カキ養殖生産量（養殖年）

資料：水産振興課調べ

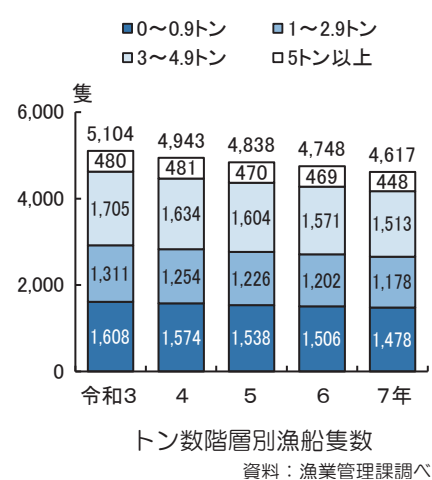
(漁業協同組合員数は4,405人)

- ・漁業協同組合員数（内水面を含む）は、前年度に比べ3.6%減の4,405人。
- ・筑前海区が1,536人、有明海区が1,466人、豊前海区は554人、内水面・業種別は849人。



(漁船隻数は4,617隻)

- ・漁船隻数は、前年に比べ3%減の4,617隻。
- ・小規模漁業を営む5トン未満の船4,169隻で全体の90%を占める。



(1) 筑前海区

(サバ類、マイワシは好調、カキ、真珠は平年並みを維持)

- ・令和7年度の漁船漁業の漁獲量は、サバ類、マイワシは平年を上回り好調、サワラは平年並み。
- ・カキ養殖及び真珠養殖は、前年度に引き続き平年並みの生産。
- ・クルマエビ106万尾、アワビ33万個、アカウニ23万個、トラフグ41万尾の種苗放流を実施。



水揚げされたマイワシ

(2) 有明海区

(ノリ生産枚数は平年比約8割、生産額は平年並み)

- ・令和7年度漁期のノリ養殖は、漁期全体を通じた少雨の影響により、沖合域を中心に栄養塩低下による色落ちが発生。その結果、7年度の生産枚数は平年に比べ17%減の8億枚、生産額は141億円で平年並み。一方、漁場の栄養塩の多寡で単価に差が発生。
- ・二枚貝資源を増やす取組として、アサリは稚貝の移植放流や採苗用砂利袋の設置等を、タイラギは人工種苗による母貝団地の造成や、人工種苗の中間育成技術開発を実施。
- ・ガザミ種苗196万尾、クルマエビ種苗104万尾等の放流を実施。



砂利袋の設置作業

(3) 豊前海区

(エビ、カニ類の漁獲が好調)

- ・令和7年度の漁船漁業の漁獲は、ヨシエビ、シバエビ、ガザミなどが好調。
- ・カキ養殖は、秋季に成長の遅れがみられたが、その後、成長、身入りとも回復し、順調に生産。
- ・水産資源の維持に向け、クルマエビ83万尾、ヨシエビ224万尾、ガザミ198万尾の種苗放流を実施。また、卵を持ったガザミの雌を保護するため、甲羅に「トルナ」と書いて、海に戻す取組を継続。



漁獲好調だったヨシエビ

(アユの漁獲が好調)

- ・令和7年度のアユの漁獲は、稚アユの天然遡上量が増加した影響などにより好調。
- ・アユは、内水面漁連で生産した種苗等を県内8河川に66万尾放流。
- ・エツは、下筑後川漁協で生産した種苗を筑後川に10万尾放流。
- ・コイヘルペスウイルス病（KHV）は、養殖場や新たな天然水域での発生なし。
- ・錦鯉は、県が防疫対策等の指導を行い、イギリス、アメリカ、オランダをはじめとする18か国に輸出。



刺網で漁獲されたアユ

(5) 福岡県水産業の主要指標

項目	区分	単位	県合計	海面漁業			内水面	全 国 ランク	備 考	
				計	筑前海	有明海				豊前海
経 営 体 数	経営体		2, 043	2, 008	1, 108 ^{*1}	644	256	35	13	令和 5 年値 (2023年漁業センサス) *1:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
就 業 者 数	人	—	3, 913	1, 648 ^{*2}	1, 866	399	—	—	11	令和 5 年値 (2023年漁業センサス) *2:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
	うち男性	人	—	3, 304	1, 588	1, 402	314	—	11	
	うち女性	人	—	609	60	464	85	—	7	
水 域 面 積	km ²	—	—	約7, 000	171	930	河川 延長 2, 179km	—	—	水域面積 (筑前海) ・隣接県との主要な陸地 間、島間の中間線を結 ぶ線に囲まれた本県漁 船が操業する水域の面 積 (有明海・豊前海) ・共同漁業権漁場の面積 (内水面) ・県土整備部河川管理課資 料 ・農林水産部農村森林整備 課資料
海 の 岸 線 の 長 さ	km	—	—	420	47	109	人工湖 17か所	—		
最 大 水 深	m	—	—	120	15	15	溜池 4, 722か所	—		
共同漁業権 免 許 件 数	件	75	62	52	4	6	13	—		
区画漁業権 免 許 件 数	件	180	161	70	59	32	19	—	—	令和 8 年 3 月 31 日現在 (漁業管理課調べ、水産振 興課調べ)
漁 船 数	隻	4, 617	4, 458	1, 943 ^{*3}	2, 012	503	159	—	—	令和 7 年 12 月 31 日現在 (漁業管理課調べ) *3:筑前海には遠洋・沖 合漁業を含む
漁 協 数	漁協	38	29	7	15	7	^{*4} 9	—	—	令和 8 年 3 月 31 日現在 (漁業管理課調べ)
漁 組 合 員 数	人	4, 405	3, 556	1, 536	1, 466	554	^{*4} 849	—	—	*4:内水面には業種別 組合の福岡県養鰻を 含む
漁 生 産 業 量	t	40, 141	39, 900	39, 900			241	24	令和 7 年値 (農林水産省「漁業・養殖 業生産統計(概数)」、漁業 管理課調べ、水産振興課調 べ)	
	漁船漁業 生産量	t	14, 866	14, 800	14, 800			66		27
	養殖業 生産量	t	25, 275	25, 100	25, 100			175		12
漁 産 出 業 額	百万円	34, 307	34, 025	9, 904	22, 080	2, 041	282	16	令和 6 年値 (農林水産省「漁業産出 額」、漁業管理課調べ、水 産振興課調べ)	
	漁船漁業 産出額	百万円	11, 367	11, 271	9, 102	925	1, 244	96		22
	養殖業 産出額	百万円	22, 940	22, 754	802	21, 155	797	186		11

注1：全国ランクは海面漁業の数値で比較。

注2：原則として単位未満で四捨五入しているため合計と内数の計は必ずしも一致しない。

(6) 福岡県水産業の全国的地位

区分 項目	単位	全国シェア 全国計	主産県				
			1	2	3	4	5
マダイ	t	9.1% 15,454	兵庫 2,050	長崎 1,795	福岡 1,412	愛媛 1,185	山口 700
チダイ	t	12.0% 1,528	宮城 235	福岡 183	長崎 161	岩手 83	島根 77
キダイ	t	5.3% 3,735	長崎 1,682	山口 707	島根 581	福岡 199	福井 107
イサキ	t	7.1% 3,303	長崎 1,018	千葉 251	島根 251	福岡 233	和歌山 183
サワラ類	t	6.2% 9,557	京都 1,011	福井 837	石川 748	福岡 653	長崎 591
アマダイ類	t	7.2% 1,085	山口 230	長崎 180	島根 109	福岡 78	徳島 64
コノシロ	t	3.3% 3,756	千葉 2,478	大阪 384	熊本 279	福岡 123	神奈川 69
クルマエビ	t	9.1% 165	愛知 67	愛媛 20	長崎 16	福岡 15	大分 15
ガザミ類	t	10.3% 1,316	宮城 291	愛知 269	福岡 136	北海道 119	長崎 71
アサリ類	t	22.8% 4,439	北海道 1,556	愛知 1,057	福岡 1,011	三重 215	熊本 193
ナマコ類	t	4.9% 5,288	北海道 1,730	青森 944	宮城 382	山口 311	福岡 258
ノリ養殖	生産枚数 (百万枚)	14.8% 5,428	佐賀 1,415	兵庫 1,258	熊本 841	福岡 804	宮城 321
	産出額 (億円)	15.5% 920	佐賀 285	兵庫 177	熊本 146	福岡 143	宮城 56

資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」、漁業管理課、水産振興課調べ

注1：ノリは令和7養殖年（令和7年10月～8年4月）を、その他は令和6年の数値を表示。